

ほっとinみえ

2019年11月発行

第40号

三重県民生委員児童委員協議会

広報啓発委員会

事務局:三重県社会福祉協議会内

TEL: 059-227-5145

FAX: 059-227-6618

ふるさとを 「祈る皇女斎王の たづねて みやこ 斎宮」 明和町

斎宮とは、天皇が即位するたびに選ばれて伊勢神宮に仕えた斎王(いつきのひめみこ)の宮殿と、彼女に仕えた官人たちの役所である斎宮寮を指す言葉です。

斎王は、未婚の内親王や女王から占いで定められ、宮中の初斎院や野宮などで足掛け3年間の潔斎生活の後、斎宮へ旅立ちます。群行と呼ばれたこの旅は、平安時代には近江から鈴鹿の山々を越え伊勢国に至る5泊6日の旅でした。

7世紀後半に天武天皇により定められたこの斎王制度は、およそ660年間続き、斎宮は9～10世紀にかけて隆盛を極めた後、14世紀の半ば南北朝の動乱のうちに、その姿を消したのでした。昭和45年から本格的に発掘調査が始まった斎宮跡は、東西2km、南北700mにわたる137haが国の史跡に指定され、現在も発掘調査を継続して行っています。

史跡東部では、碁盤目状の道路に区画された平安時代はじめ頃の役所の跡が確認され、また、斎王が生活した内院の調査も行っています。一方、史跡西部では、飛鳥時代の初期の斎宮の様子なども徐々にわかってきてています。



斎王寮復元模型 斎宮歴史博物館



「斎王祭り」 斎王群行



目 次

・令和元年度三重県単位民生委員児童委員協議会会長研修会	事業・収支報告	1
・令和元年度三重県単位民生委員児童委員協議会会長研修会	グループ懇談会・講義	2
・機関紙viewの紹介		3
・単位民児協活動紹介 <桑名市> 長島地区民生委員児童委員協議会		4
・児童福祉委員会・在宅福祉委員会		5
・主任児童委員会・広報啓発委員会		6
・ちょっと一言・障がい福祉・編集後記		7

令和元年度

三重県単位民生委員児童委員協議会会长研修会

平成30年度事業報告

令和元年度三重県単位
民生委員児童委員協議會
會長研修会が6月12日
～13日志摩市賢島宝生
苑で開催されました。

1. 会務の運営

* 常任理事会：4回 * 理事会：3回 * 監事会：1回 * 代議員会：2回

2. 研修事業の実施

- | | |
|--------------------------------|----------------------|
| * 単位民児協会長研修会 | * ブロック別研修会（8会場） |
| * 民生委員・児童委員中堅（専門）研修会 | * 新任民生委員・児童委員研修会 |
| * 在宅福祉研修会 | * 市・町民生委員・児童委員研修会の推進 |
| * 各研修会の後援（主任児童委員研修会、相談に関する研修会） | |

3. 委員会活動

- | | |
|--------------|----------------------------|
| * 企画研修委員会：1回 | * 在宅福祉委員会：4回 |
| * 児童福祉委員会：4回 | * 広報啓発委員会：10回 * 主任児童委員会：4回 |

4. 民児協活動強化事業

- | | |
|--------------|--|
| * モデル民児協への助成 | 6地区 |
| * 研修会・会議への参加 | 第87回全国民生委員児童委員大会 全国民生委員指導者研修会
全国主任児童委員研修会（西日本） 都道府県・指定都市事務局会議
東海北陸ブロック県・指定都市民生委員児童委員関係事業会議 |

5. 互助事業の実施

- | | |
|-----------------------------|----------------------|
| * 顕彰互助内規により表彰を受けられた方々へ記念品贈呈 | |
| ・叙勲を受けられた方：2名 | ・厚生労働大臣表彰を受賞された方：14名 |
| ・全国社会福祉協議会会长表彰を受賞された方：11名 | |
| * 慶弔金の支給 | ・会員死亡：6名 * 配偶者死亡：19名 |

平成30年度 一般会計収支

収入の部 (単位:円)

区分	額
会費	15,528,900
補助金	1,445,250
繰入金収入	0
負担金収入	0
受託金	971,316
雑収入	165,664
繰越金収入	3,072,316
収入合計	21,183,446

平成30年4月1日

～

平成31年3月31日

収入決算額 21,183,446

支出決算額 17,382,336

差引額 3,801,110

※次年度に繰越

支出の部 (単位:円)

区分	額
事務費	1,527,494
事業費	5,802,028
民生委員大会費	0
負担金支出	8,937,900
繰出金	1,049,250
積立金	0
雑支出	65,664
予備費	0
支出合計	17,382,336

三重県単位民生委員児童委員協議会会長研修会



【第1日目: 6月12日】

・グループ別懇談会テーマ

- * 本期の活動を振り返って
 - * 来年度以降の課題について
 - * 新任委員に対する引継ぎについて
 - * 会長としての単位民児協運営について
- 各グループに分かれてテーマに沿って話し合いました。

【第2日目: 6月13日】

民生委員・児童委員を取り巻く現状と 「地域版 活動強化方策」について

全国社会福祉協議会 民生部 部長 佐甲 学 氏

地域に対する取り組み方策を中心に多くの資料を駆使されて講義をいただきました。

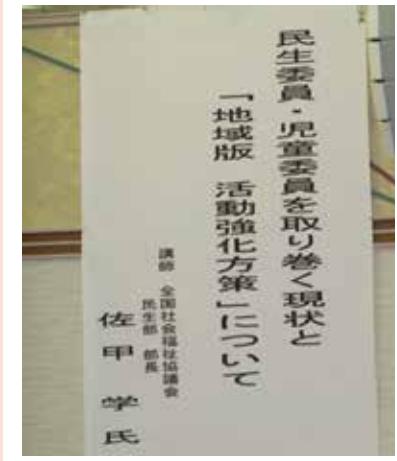
今、行政はもとより全民児協も地域との信頼関係を深めて活動を強化する事が最重要課題であると述べられ、その為に何が必要なのかを集中的に教示されました。

単位民児協毎に担当地域の現状をしっかりと理解、分析し

今後の活動課題をまとめることが大切であり、会長はじめ委員全員で定例会議の在り方を工夫してストレスが少なくなる運営を話し合う事、全国的な問題点として高齢化の進展により、見守り訪問、困窮者自立支援、認知症の拡大等による住民間のトラブルも増えて「地域福祉の担い手」として重要性が増す一方で負担の重さが課題となっており、民生委員・児童委員のなり手不足も深刻な問題になっています。

また、活動見直し策として、行政と地域で福祉に関係する各種団体との交流をさらに深め、情報を共有する事が必要で、民生委員・児童委員の活動をもっと地域にPRする事が重要であると述べられました。

最後に昨年の9月にまとめられた「民生委員制度創設100周年活動強化方策推進の手引き」を利用して「わがまちならでは」の活動強化方策の作成にチャレンジしてほしいとのお願いと、冊子の28ページ～35ページにあるワークシートを利用して民児協定例会議での研修に活用してほしいと結ばれました。



災害に備える民児協活動

各地で自然災害が発生するなか、地域住民と行政や地域の幅広い関係者が連携して災害に備える体制づくりが求められています。全民児連では平成31年3月に「災害に備える民生委員・児童委員活動に関する指針」を作成・配布し、周知を図っています。

(1)被災地における民生委員・児童委員活動

平成30年度は、地震、台風、水害など自然災害の多い年になりました。全民児連では、「民生委員・児童委員災害救援活動支援制度に基づき大阪北部地震、7月豪雨被害、北海道胆振東部地震などに対し支援金を行いました。

また、それぞれの被災地への訪問、状況把握などを行いました。

被災地の民生委員・児童委員が、避難所への訪問、相談活動や社会福祉協議会などと連携をした災害ボランティアセンターの運営補助など、地域住民の支えとなる活動を行っていました。

(2)全民児連の災害への取り組みと指針

全民児連では、平成31年3月に「民生委員・児童委員による災害時要援護者支援活動に関する指針」の改訂第3版として、「災害に備える民生委員・児童委員活動に関する指針」を作成・配布しました。第2版作成してから5年が経過し、指針を見直すにあたり、名称も「災害に備える民生委員・児童委員活動に関する指針」としました。

変更のポイントは次の3点です。

- ① 民生委員・児童委員も地域住民のひとりであり、自らの安全が最優先である
- ② 災害時要支援者の支援は民生委員・児童委員だけが担うのではなく、地域ぐるみの取り組みが必要である
- ③ 災害時に円滑な対応を行うためには、平常時の取り組みが重要である

こうしたポイントを基に、民生委員・児童委員及び民児協関係者が、日頃から意識し、再確認すべきこととして、「**災害に備える民生委員・児童委員活動10か条**」をまとめました。

活動10か条	災害に備える民生委員・児童委員
第1条 自分自身と家族の安全を最優先に考える	第1条 自分自身と家族の安全を最優先に考える
第2条 無理のない活動を心がける	第2条 無理のない活動を心がける
第3条 地域住民や地域の団体とうなり、協働して取り組む	第3条 地域住民や地域の団体とうなり、協働して取り組む
第4条 災害時の活動は日頃の委員活動の延長線上にあることを意識する	第4条 災害時の活動は日頃の委員活動の延長線上にあることを意識する
第5条 民児協の方針を組織として決めておく	第5条 民児協の方針を組織として決めておく
第6条 名簿の保管方法、更新方法を決めておく	第6条 名簿の保管方法、更新方法を決めておく
第7条 行政と協議し、情報共有のあり方を決めておく	第7条 行政と協議し、情報共有のあり方を決めておく
第8条 支援が必要な人に、支援が届くように配慮する	第8条 支援が必要な人に、支援が届くように配慮する
第9条 孤立を防ぎ、地域の再構築を働きかける	第9条 孤立を防ぎ、地域の再構築を働きかける
第10条 民生委員同士の支えあい、民児協による委員支援を重視する	第10条 民生委員同士の支えあい、民児協による委員支援を重視する

単位民児協活動紹介 <桑名市>

長島地区民生委員児童委員協議会

長島町(ながしまちょう)は、三重県の北勢地域、木曽三川河口部の濃尾平野の南西部にあり、2004年12月に桑名市・多度町と合併し新しい桑名市となりました。町全体が平坦低湿で、かつては堤防に囲まれた複数の輪中によって構成されていました。地名の長島は7つの洲からなる「七島」、あるいは南北に長い土地であることから付けられたとされています。



長島地区民児協は、民生委員・児童委員24名（うち、主任児童委員2名）で、地域の人たちと協力し合い5つの部会のうえ（障害者部会・高齢者部会・児童部会・広報部会・主任児童部会）になりたち部会ごとに活動を行っています。

障害者部会は、地域交流の場として「社会福祉法人のぞみの里」へ、毎月2名で施設応援を行っています。「のぞみの里」は障がいのある方々の地域生活支援の核となる施設です。民生委員としても力になればと思い参加させていただいております。

また、毎年5月に「のぞみまつり」が開催されますので、ボランティア活動として参加しまつりを盛り上げています。このまつりを通して地域の皆様と幅広い交流を行っています。



のぞみまつり



生きがい広場

高齢者部会は、毎年6月・12月に「一人暮らし高齢者生きがい広場」を開催し、民生委員全員による手作り弁当の食事会をひらき、その後一緒に楽しい時間を過ごしています。12月には高齢者の集い事業として「おもち配り」も行っています。



子育てサロン

児童部会は年4回、長島福祉健康センターにて子育て中の保護者も自由に参加していただき、音楽療法や絵本の読み聞かせ・人形劇、12月にはクリスマス会を開催しています。また、「長島福祉健康まつり」には、児童部会を中心に小学生を対象とした物作りの楽しさを実感することを目的とした、親子ふれあい工作工房を行っています。

その他、民生委員全員参加によるパークゴルフ大会、年1回研修旅行や3年に1回による一泊研修旅行を行い、民生委員相互の親睦を深め意見交換を行っています。

委員会紹介

・児童福祉委員会・在宅福祉委員会
・主任児童委員会・広報啓発委員会

各委員会より

原稿をいただきました

児童福祉委員会

児童委員活動事例調査報告の冊子発行にあたり

児童委員の活動を皆様によく知っていただくには、児童福祉委員会にてどのように啓発活動をしていくのか会議を進めてきました。県内各地区民児協に御協力をいただき「児童委員活動事例調査報告」を完成し、皆様にお届けすることができました。

そしてこの調査結果を踏まえ、令和元年9月4日（木）三重県総合文化センターにて皇學館大学准教授の大井智香子先生による「いま改めて児童委員・主任児童委員の役割を考える」をテーマに「児童委員活動事例調査報告」の総括も含め研修会を開催しました。

民生委員・児童委員の役割と連携・協力が必要であるなどお話をいただきました。

児童幼児に関する問題が多様化し、山積している現在の社会のなか、常に情報を共有化し、ともに力を合わせ、フォローし合いながら、地域の中に密着した活動を続けていくことが求められていると思いました。



在宅福祉委員会

3年間の歩み

2016年7月、厚生労働省は『地域共生社会』という新しい地域福祉の概念を公表、大臣直轄でその実現に向けた検討をスタートしました。

地域共生社会は、“高齢者・障害者・子どもなど全ての人々が、1人ひとりの暮らしと生きがいを、ともに創り、高め合う社会”と定義されており、現在政府は高齢者を地域で支えるための「地域包括ケアシステム」（医療、介護、予防、生活支援サービスを切れ目なく提供し、高齢者の地域生活を支援）の構築を推進していますが、地域共生社会はこれをより進化させ、課題を持つあらゆる人を地域で支えるための仕組みであることを土台として在宅福祉委員会では13名+常任理事で3年間で皆様にどのように伝えるか協議し研修会を開催しました。

平成29年度 題名：「地域包括ケアの進化・地域共生社会の実現に向けて」

講師：四郷在宅介護サービスセンター長 堀尾 栄 氏

平成30年度 共生社会の実現に向けた取り組みと民生委員活動への期待」

講師：厚生労働省社会・援護局 地域福祉課 地域福祉専門官 玉置 隼人 氏

令和元年度 題名：「私たちが作る地域共生社会・地域包括ケア

～医療・介護をめぐる政策動向を踏まえて～」

講師：津市立三重短期大学 教授 長友 薫輝 氏

・3地区の事例発表と先生による講評

主任児童委員会

社会福祉法人みどり自由学園美鈴の家

施設管理者 笠松成夫さんの講義を聞いて

主任児童委員会では年に一度、三重県主任児童委員研修会を企画、開催してまいりました。

令和元年度は『児童虐待も含めたDVの事例について』と『子どもの人権と親子の関係について』という演題で社会福祉法人みどり自由学園美鈴の家施設管理者の笠松成夫さんに講義をいただきました。

講義ではある夫婦間で不満をぶつける口喧嘩がきっかけとなり夫が暴力を振るうDVの事例が紹介され、子どものためと耐える妻の姿、エスカレートする夫の行動が強く印象に残りましたが、そうした苦痛から脱するきっかけは警察や専門機関に連絡、相談されたことでした。講師の笠松さんは『暴力を野放しにしてはいけない』と強調されていましたが、勇気を持って専門機関など謂わば社会の力を活用していくことが重要なだと改めて学びました。

三重県における児童虐待件数は平成30年度には過去最多を更新したとのことです。児童相談所へ持ち込まれる相談の特徴として『警察からの件数が大きく増加（全体の24.4%）』している一方で『近隣の知人からの通報（全体の12.0%）』も一定の割合を占めていて、主任児童委員、児童委員も含めた地域の方々からの通報、協力するという意識が重要であると述べられていました。

最後になりましたが3年間多くの方々のご協力により、研修会を開催できましたことを感謝申し上げます。ありがとうございました。

広報啓発委員会

3年間を振り返って

2016年の12月一斉改選後、新しい委員での編集会議が開かれました。

「ほっとinみえ」の今までの委員会の思いを大切にしていくこと、少しでも読み易くを目指し、レイアウト・イラストや色配合にも苦心しました。読む側から作る側・読者から編集側になりみんなで何度も原稿の読み合わせを行いました。

- ▶表紙は（ふるさとをたずねて）33号の南伊勢町「河村瑞賢」から始まり、40号は明和町「祈る皇女斎王のみやこ 斎宮」を掲載しました。三重県北から南から4197名の民生委員・児童委員の皆様に三重県の歴史・語り継がれている伝統行事を知っていただくことが地域の絆づくりになればと思います。
- ▶シリーズ 障害者福祉について・・児童福祉・老人福祉等の中で障害福祉の大切なことをみんなで話し合い制度・ヘルプカードの紹介など掲載しました。
- ▶機関紙 view の紹介（「地域共生社会」の実現に向けて・児童福祉改正の意味するもの）定例会で活用していただけたらの思いで紹介しました。
- ▶単位民児協活動紹介 150の単位民児協から8地区の活動紹介をしました。
- ▶防災についての単位民児協の取り組みについての紹介

民生委員制度100周年、児童委員制度70周年（平成29年）を迎えるにあたり、全国民生委員児童委員会協議会では「支え合う住みよい社会地域から」をスローガンに私たちの活動は重要になってきました。

地域社会ではまだ孤独や生活困窮家庭、虐待などが後を絶ちません。広報の紙面でもって研修会や講演会の内容を紹介していくことで単位民児協の活動に役立てていただけたら嬉しいです。

障がい者福祉について

○平成28年の改正身体障害者雇用促進法の成果について、ある地域の身体障害者（児）連合会の会議の中（31年4月開催）聴き取りをして頂きました。その席での内容をお知らせします。

- 1、作業環境を整える・勤務時間等を考慮する合理的配慮については雇用契約時にお互いに納得できる条件で合意をしている。
- 2、法定雇用率の目標（平成30年4月から）については2.4～2.5%の公的機関では求人情報などが増え～雇用機会が多くなり、おおむね達成されていると思えるが～2.2%対象の雇用人数44.5人以上の民間企業については対象の企業が少数の為に分からぬ。
- 3、給与や昇給・研修や実習・食堂や休憩室の利用などで障がい者で有る事を理由とした差別の禁止の取組みについては今後も続けていってほしい。

総論としては雇用者側の担当者や就労障がい者も改正身体障害者雇用促進法の周知不足からか、お互いにどうしたらしいのか戸惑っている感じが強い。

今回の「ほっとinみえ」まで、身体・知的・精神障害の方々に対し民生委員・児童委員としてどのように接していくのか、それに対する注意点について7回にわたりシリーズで紹介を続けてきました。日本では約1,000万人と言われる障がい者の皆様には雇用問題、公職選挙法ほか、法的に整備されても運用面ではまだまだ周知不足も多く、更に改善すべき点もあると言われています、今後とも少しでも障がい者の皆様の一助となるように私達も学習を続けて行きたいと思います。

3年間「広報啓発委員会」ありがとうございました

ちょっと一言

【いつの時代も子どもが一番】

平成の時代は凄惨な児童虐待の事件が続き、悲報を知らされる度に心が痛んだ。今年3月に警察庁は、2018年に摘発した児童虐待事件は1380件、被害にあった子どもは1394人、いずれも前年比約20%増で過去最多となり、憂慮すべき事態と警鐘を鳴らしている。また、身体的虐待件数は1095件（摘発全数の79%）とのことで、幼い子ども達が大人の暴力により痛みと苦しみに耐え、懸命に生きている現実を知らされました。

『大人の皆さん！どうにかなりませんか・・・』と助けを求める幼児の声に「こんな社会にしてはいけない、いつの時代も子どもが一番、子どもに勝る宝物は無かった筈です。古くは万葉集に山上憶良が、その想いを詠んでいます。

銀（しろかね）も金（くがね）も玉も何せんに

勝（まさ）れる宝子しかめやも

万葉集と縁ある令和の時代は、「子どもが一番」の明るい社会で暮らせるよう願っています。

編集後記

今期最後のほっとinみえ40号をお届けいたします。各ブロックの代表14人が皆様に読んでいただける広報紙に出来たらとの思い、気持ちで作り上げてきました。

委員会では原稿の読み合わせは何度も行いました。

私たちは素人の集まりです。それ故にみんなの力をひとつにしました。委員会での絆を強め、その思いが皆様におとどけできたら嬉しいです。

3年間ありがとうございました。

氏名	役職	ブロック・市町名	氏名	役職	ブロック・市町名
山本 壽人	常任理事	南勢志摩・南伊勢町	遠藤 悅子	委員	中勢・津市
小林 初美	委員長	南勢志摩・伊勢市	松尾 容子	委員	松阪多気・松阪市
伊藤 功	副委員長	伊賀・伊賀市	石田 和弘	委員	松阪多気・明和町
海野 スイ	副委員長	中勢・津市	谷水 清久	委員	南勢志摩・志摩市
森川 高明	委員	北勢（桑員）・桑名市	池田 允彦	委員	伊賀・名張市
伊藤 良一	委員	北勢（三泗）・四日市市	平山 恵康	委員	紀州・尾鷲市
野田 栄一	委員	北勢（鈴鹿）・鈴鹿市	三間 則為	委員	紀州・熊野市